

あゆみ

桜山町会、その名称は旧中野区桜山町の地名から由来するもので、戦後の復興も進み住宅地化したこの地に、昭和29年の初め頃、当時の東中野銀座通り商店街の店主や有志により自治活動が行われるようになった。

この地は古くは江戸時代より、桜の名所と謳われ、八重桜が山一面に咲き誇っておりましたが、戦災により当時の桜は全て枯れてしまい、元の桜の山に戻したいと店主や地元住民の寄付により、埼玉県から吉野桜の苗木を45本買い入れ、旧国鉄東中野駅駅長に懇願し、数度の話し合いの結果、中央線北側の土手に山の手通りから隣接の文園町会の手前までの約300m程に桜の木が植樹されました。

大切に手入れをした甲斐があって美しい花を咲かせてくれる大きな桜の木に成長しました。昭和32年のことで、後にこの通りは桜山通りと命名されました。昭和62年3月のことです。この年に「日本さくらの会」より表彰され、同会の会員に列せられ桜の名所となりました。当所の土手には有志が種を蒔いた菜の花だけが目をひいていたが、桜の木が育ち花を咲かせるようになると、桜の花と菜の花のコントラストが際立ち、中央線の車窓から眺める景色が素晴らしいことから評判を呼び桜の名所の名誉を戴くまでになりました。

昭和56年7月から中野区公園緑地課が土手と桜の木・菜の花の管理を行うようになりましたが、JRの敷地内に入って管理作業を行うことは、電車運行上危険を伴うとのことから、全ての管理はJRが行うようになり現在に至っています。(平成23年JR受託による維持管理開始。)

現在の地名である東中野三丁目には二つの町会が存在しています。早稲田通りが昭和37年4月に全線開通し今までであった昭和通りの名が無くなり、旧町名の昭和一丁目の一部が残り、昭一文化会が混在しています。

しかしながら、昭和32年に植樹された桜の木も樹齢約70年の老木となり、中央線の線路上に倒木や枝の落下により電車の運行上危険を及ぼす木から順次伐採していく意向である旨、区とJRから伝えられています。

地域住民としては、JRの電車安全運行を妨げる樹木伐採に反対するものではなく、桜並木を存続させるための、若木の植え替えや方策等今後の展望について中野区とJR及び地域住民による協議の場を設け、桜並木を次世代に残すことを要望しています。



染井吉野の碑

主な活動・行事

- ・歳末夜警(防火部・防犯部)
- ・春・秋の交通安全運動(交通部)
- ・盆踊り大会(昭一文化会・東中野銀座通り商店会と協賛)
- ・氷川神社祭礼(東中野銀座通り商店会と協賛)
- ・デイキャンプ(昭一文化会と合同)
- ・ひなまつり(婦人文化部)
- ・ポーリング大会(青少年部)
- ・日帰り旅行(婦人文化部)
- ・グラウンドゴルフ大会